

2020年度 一般入学試験 前期日程 (2月2日)

**国**

**語**

(試験時間 60分)

**注 意 事 項**

- 1 試験開始の合図があるまで、この問題冊子の中を見てはいけません。
- 2 この問題冊子は、31ページあります。
- 3 試験中に問題冊子の印刷不鮮明、ページの落丁・乱丁及び解答用紙の汚れ等に気付いた場合は、手を挙げて監督者に知らせなさい。
- 4 解答用紙には解答欄以外に次の記入欄があるので、それぞれ正しく記入し、マークしなさい。

① 試験コード欄・座席番号欄

試験コード・座席番号(数字)を記入し、さらにその下のマーク欄にマークしなさい。正しくマークされていない場合は、採点できないことがあります。

② 氏名欄

氏名・フリガナを記入しなさい。

- 5 解答は、解答用紙の解答欄にマークしなさい。例えば、

10
----

と表示のある問いに対して③と解答する場合は、次の(例)のように解答番号10の解答欄の③にマークしなさい。

(例)

解答番号	解 答 欄									
10	①	②	●	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩

- 6 問題冊子の余白等は適宜利用してよいが、どのページも切り離してはいけません。
- 7 試験終了後、問題冊子は持ち帰りなさい。





第1問 次の文章を読んで、後の問い(問1～12)に答えなさい。

① 「精神の文字化」とは、われわれの思考の働きがテツテイ的に文字の存在に依存するようになっており、文字なしではわれわれの思考が少しも働かないようになってしまっていることをいう。

② 例えば、われわれが日常普段使っている話し言葉の何と多くが漢字の存在を前提に成り立っていることだろうか。文字が伝来する以前の純粹なやまと言葉だけで現代の言語生活を充足することなどは想像もできない。私がちよつとした会話のなかで「キシヨウ」という言葉を発したとする。その場合、聞き手はこの「キシヨウ」が「起床」なのか「気象」なのか「気性」なのか「記章」なのか、あるいは「稀少」なのかを、通常は話の文脈を通して即座に判断し理解する。そして、私の方も聞き手が「キシヨウ」という音声聞いて、それが実は「稀少」であることを即座に理解してくれることを暗黙の前提にして話をする。こうしてわれわれはお互いにそれぞれが頭の中で文字言語を自由に駆使できることを当然のこととして言説世界(world of discourse)に参入する。もちろん、相手が子どもであれば「キシヨウ」などという言葉は不用意には使えない。【a】、会話の内容はおのずと制限されてくる。しかし、だからこそ、われわれはこの子どもに対しても、「キシヨウ」という音声を聞いて、それを頭のなかで即座にしかるべき文字に的確に変換する能力を身につけることを要求する。かくして、この子どもの精神もやがては文字化される。

③ こうした「精神の文字化」が識字、つまり文字の読み書き能力の成果であることは言うまでもない。言うまでもないことだけれども、しかし一定の説明は必要である。【b】、われわれは通常「識字」というものをあまりにも単純に「文字の読み書きができること」(『広辞苑』第六版)といった程度にししか理解していないからである。ところが、識字は単にそれだけではすまない性質をもっている。

④ 確かに、識字は即目的には文字を読み書きできる能力には違いない。だが、そうした能力をもつことが、実は文字の読み書きができることを暗黙の前提にして成り立っている社会的諸関係への参入の度合いを決定づけているという点に、識字の本来的な

機能がある。つまり、「識字」とは一つのソシオロジカルな概念だということである。

⑤ 【c】、文字の読み書きを暗黙の前提にして成り立っている社会的諸関係というのは、単に直接に文字<sup>(ロ)</sup>バイタイ(例えば、新聞、雑誌、書籍、あるいは手紙や文書、広告、案内板など)を介して取り結ばれる間柄という狭い意味だけではない。さらに広い意味で、それは、文字がなければ本来は存在しないはずの特殊な言葉や表現、言い回し(つまりはフォーマルな文字言語表現)を自由に駆使しうる人びとの間で取り結ばれる言説空間全体を意味している。

⑥ 例えば、文化講演会やシンポジウムのような場を支配している言説空間を思い起こせばよい。ここでは、話者の語る言葉は現象的にはオーラル(oral)な話し言葉ではあっても、その話し言葉自体は基本的には文字言語を介在させたリテラル(Literal)な話し言葉になっている。つまり、文字言語や文字文化に関する一定の教養を前提とし、それに支えられて成り立っている話し言葉なのである。そして、聴衆の方にも、そうしたリテラルな話し言葉の内容を理解し受けとめるだけの一定の教養のわかまえばあることがはじめから当然の前提とされている。そうでなければ講演会やシンポジウムは成立しない。いわんや、話を聴いて理解するというだけではなく、その場で質問をしたり自由な意見の交換に参加したりするとなれば、文字言語や文字文化に関する教養のわかまえばさらに重要になるであろう。こうして、文化講演会のような場は、表向きだけでも参加できる公開の場とはなっていない、実際には一定水準以上のリテラルな教養を有している人びとを引き寄せ、そうでない人びとを遠ざけるという形で社会的な排除の力が作用する場となっている。

⑦ 「消費動向は依然として低迷を続けており、これに円高と価格破壊が追い打ちをかけて……」といった言語表現は、現代社会ではごくありふれた言語表現である。だが、こうした言語表現にどれだけ素直についていくことができるのか。それを決定づけるのが識字なのである。単に「消費」や「低迷」「価格破壊」を書き取りテストよろしく読み書きできることだけが識字なのではない。たとえばこうした言語表現を読んだり書いたりすることができるとしても、その意味内容を素直に理解することができなければ、それは確かに一つの非識字(illiteracy)に違いない。

⑧ アメリカの英語学者 E. D. ハーシュはこうした非識字を“cultural illiteracy”つまり「文化的非識字」または「教養文盲」

と呼んでいる。だから、識字とは単に「文字記号を読み書きできる能力」というだけではすまないものであって、むしろそのような読み書き能力を当然の前提として成り立っている文字文化の世界（書き言葉の言語世界）を自らの精神の糧として、つまり思考の生きた構成要素として自由に駆使できることまで含む。要するに、識字とは文字文化の内面化である。それによってわれわれの精神の働きは文字化される。

⑨ かくして、われわれが取り結ぶ社会的コミュニケーションの場合は、文字文化の上に成立する一定の教養のわきまを絶えずわれわれに求めてくることになる。それは単にわれわれが無数の文字バイタイ（例えば新聞や雑誌、書籍、各種の文書など）に取り巻かれて生活をしているからということだけではない。さらに本質的な問題は、たとえわれわれがそのような純然たる書き言葉の世界を離れたとしても、われわれのオーラルな話し言葉の世界そのものが既にリテラルな書き言葉の世界によって深く浸透されていて、もはや文字言語とその文化の存在を抜きにはわれわれの話し言葉の世界そのものが正常に機能しなくなっていることである。

⑩ 一つの比喩的な例として、学校の授業場面を考えてみればよい。教師の発話は、なるほど一見したところでは **A** な話し言葉になっていくが、本質は一定の教育内容を背後に据えた **B** な話し言葉なのである。教師の発話は、あえて単純化して言えば、文字言語の範型に即して教師の頭の中にあらかじめ準備されているテキスト（教育内容）を音声に吹き替えているようなものである。そして、生徒は授業の中で教師や他の生徒たちとの言葉のやり取りについていくためには、自らの思考の回路を純然たる **C** な言語世界から切り離して、多分に **D** な言語世界の範型に合わせていかなければならない。このことは、いわゆる教師主導の一斉授業だけではなく、生徒たちの自由な発言のやり取りを中心とする授業においても同じである。たとえば教科書やプリント類はいつさい使わないとしても、授業というコミュニケーションの場自体が生徒たちに文字文化を前提とした一群のボキャブラリーと論理の使用を要求するのである。それができなければ、生徒はデイス・コミュニケーションにソウグウし、授業の輪の外に投げ出され、自分の無力を味わわれることになる。

⑪ 同様のことは、現代社会においてわれわれが取り結ぶ社会的コミュニケーションのあらゆる場において大なり小なり生じてい

ることであろう。職場で、家庭で、地域で、街角で、純然たるオーラルなコミュニケーションなどというものがどれだけ存在しているのか。リテラルな言語表現はビジネスや各種の会議、講演会といったような場での言説空間ばかりでなく、一家団らんや喫茶店での言説空間の中にすら必ず何らかの形で介入してきているのが現実である。われわれもまた、先の学校の教師の例のように、有 **X** 無 **X** の何らかのテキストをあらかじめ頭の中に準備しておいて語るということを日常の中で絶えずおこなっているし、書き言葉の範型に即して語るということをあらゆる場所であらゆる機会に求められ実践している。そして、学校の生徒たちと同様に、社会のあらゆる場面の中で、多種多様なリテラルな種類の語りかけの渦に適切に参加していくために、文字言語と文字文化を前提とした思考回路の使用を否応なく求められているのである。まさにそのために、われわれは識字能力を身につけなければならないのである。

**12** したがって「精神の文字化」とは、われわれの精神の働きがオーラルな語りの世界からますます遠ざかり、リテラルな言語世界にますます依存するようになっていくことをいう。もともと文字記号は、その場限りの語りの世界を記録の中に固定化するために発明された道具にすぎなかった。だが、この道具は語りの世界そのものに反作用し、本来はオーラルであったはずのヤクドウ的な語りの世界を自らのリテラルな範型に従わせていく。話すように書くのではなく、書くように話すこと。話したことがそのまま美しい文章になるように話すこと。それがかつてのイギリス・ジェントルマン階級の洗練された言語生活の理想であった。そして、そのためにジェントルマン向けの厳しい家庭教育と学校での教養教育が準備された。イギリスのバジル・バーンシュティンが指摘した下層階級の「制限コード」(restricted code)と中・上流階級の「精密コード」(elaborated code)との違いは、前者がオーラルな語りの世界に多分に踏みとどまっているのに対して、後者が洗練された書き言葉の世界を彼らの精神生活の範型にしていることを表している。

**13** こうして、<sup>(E)</sup>識字は単なる識字術ではなく、むしろ現実には「文字文化の内面化」として機能する。そして、われわれの言語生活がオーラルな性格を失ってリテラルな範型に整えられると、言葉は人びとを社会的に結び付けたり排除したりする階層化の目に見えざるシヒョウ<sup>(ホ)</sup>となる。

(小柳正司の文章による)

(注)

- 1 ソシオロジカルな … 社会的な。
- 2 バジル・バーンシュテイン … イギリスの言語学者・社会学者(一九二四―二〇〇〇)。



問1 空欄〔 a 〕 〔 c 〕に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

解答番号は

1

3

a

1

① したがって

② もしかしたら

③ だが

④ もしくは

⑤ ただし

b

2

① このように

② なぜなら

③ いっぽう

④ ところで

⑤ もっとも

c

3

① 例えば

② まさしく

③ なるほど

④ しかも

⑤ やはり

問2 破線部ア「即自的には」・イ「範型」の本文中の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は 4・5。

ア 「即自的には」

4

- ① 自分の考えでは
- ② 瞬時の判断では
- ③ 定義どおりでは
- ④ 安易な理解では
- ⑤ 歴史上の認識では

イ 「範型」

5

- ① 手本となるかたち
- ② ある組織の中で最も優秀な人物
- ③ 柔らかいものを入れて固める装置
- ④ ルールを定めた文章
- ⑤ サイズを測るための枠

問3 波線部(A)「精神の文字化」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から

選び、記号で答えなさい。解答番号は 6。

- ① 子どもが育つていく過程において、文字を読むことで思考の働きが刺激され、高度になっていくということ。
- ② 人間の精神は文字によって一杯になっており、文字が増えていくことで精神の働きも活発になっていくということ。
- ③ 文字言語はわれわれの思考過程と強く結び付き、今や満足な言語生活を送る上で不可欠なものになっているということ。
- ④ われわれは相手と会話をする時に自分が言いたいことをまず文字で思い浮かべ、それから初めて伝えているということ。
- ⑤ 人間の精神という形のないものは、文字があることによって初めて捉えることができ、認識されているということ。

問4 波線部(B)「識字は単にそれだけではすまない性質をもっている」とあるが、これはどういうことか。その説明として最も

適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

7。

- ① 識字とは文字の知識の多少を言うのではなく、読み書きに関するより高度で知的な能力の有無を言い表すものである。
- ② 識字とは読み書きの能力だけを言うのではなく、読み書きができるようにならなければならないという権力からの暗黙のメッセージを意味している。
- ③ 識字とは読み書きの能力を持っているというだけでなく、読み書きを通して社会に関わっていくという積極性のことの意味している。
- ④ 識字とは単に文字を知っているというだけでなく、文字とは何か、読み書くとは何かというメタレベルの知を前提とするものである。
- ⑤ 識字とは単なる読み書きの能力ではなく、読み書きの能力を参加の前提とする社会に関わっていくことを可能にする機能を持っている。

問5 波線部(C)「こうした非識字」とあるが、これについて説明した次の文章の空欄 **I** **III** に入れるのに最も

適切なものを、後の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は **8** **10**。

識字とは一般に **I** を言い、その意味で非識字と言えはそうした能力の欠如を意味することになる。だが筆者は

E・D・ハーシユの議論に依拠しつつ、そうした一般的なリテラシーにとどまらず、 **II** による言語表現について

**III** ことが不能であることを「非識字」として捉え、「文化的非識字」ないし「教養文盲」と呼ぶのである。

**I**

**8**

- ① 文字で感情を他人に的確に伝えられること
- ② 文字に関わる知識を多く蓄えていること
- ③ 記号を適切に用いることができること
- ④ なるべく多くの文字を知っていること
- ⑤ 文字の読み方を知り適切に書けること

**II**

**9**

- ① 文字文化
- ② 教養
- ③ 学校教育
- ④ 書き言葉
- ⑤ 話すこと

Ⅲ

10

- ① 素直に称賛する
- ② 内容をすんなりと理解する
- ③ 熱心に訓練する
- ④ 音声に変換して読み取る
- ⑤ 声に出して確認する

問 6

波線部D「比喩的な例」とあるが、「比喩的」という語句を用いることにより、筆者はここでどのようなことを表そうとしているか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 11。

- ① 学校の授業場面の例は現実に存在した事例ではなく、筆者が現代社会への文字言語の浸透を示すに際し、事態をわかりやすく説明するために創造した出来事であるということ。
- ② 学校の授業場面における教師の発話と生徒の発話の例は、実際には話し手と聞き手というコミュニケーションにおける二つの主体を比喩的に表したものであるということ。
- ③ 教科書というテキストと、教師の語りが用いられる場である学校を出すことで、口頭言語と文字言語の対立と浸透という主張を読み手にわかりやすくイメージさせるものであるということ。
- ④ 学校の授業場面の例は筆者が現実にあった出来事として見聞きしている例だが、そのことを直接的に主張することはばかられ、比喩とすることばかしているということ。
- ⑤ 学校の授業場面の例は具体的な事例の一つというより、現代社会で文字言語が話し言葉に浸透していることがわかりやすく表れた代表例として、筆者が選び出したものであるということ。

問7

空欄

A

D

には、「オーラル」もしくは「リテラル」のいずれかの語句が当てはまる。入れるのに適切

な語句として、「オーラル」の場合には①を、「リテラル」の場合には②を、それぞれマークしなさい。解答番号は

15

A

12

B

13

C

14

D

15



問 8 空欄  X には共通した漢字一字が入る。その漢字として最も適切なものを、次の ①～⑤の中から選び、記号で答えな

さい。解答番号は 。

- ⑤ 言
- ④ 為
- ③ 形
- ② 耶<sup>や</sup>
- ① 象

問9 次の一文は、本文中のいずれかの段落の終わりに入るべきものである。この一文が入る段落として最も適切なものを、後

の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は 17。

学校教育がそのような意味での識字能力の基本的な習得の場になっていることは言うまでもない。

① 第3段落

② 第5段落

③ 第10段落

④ 第11段落

⑤ 第12段落

問10

波線部(E)「識字は単なる識字術ではなく、むしろ現実には『文字文化の内面化』として機能する」とあるが、本文全体の趣旨を踏まえると、これはどういうことか。その説明として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

18

- ① 識字は、文字文化を理解する教養を前提としている社会へ参入する度合いを決定する。そのことは、書き言葉の規範に即して語りあるいは理解する思考回路を身につけることを暗黙裡（もくもく）に人々に要求し、書き言葉の言説世界を受け入れられない人々を排除する構造をもたらすということ。
- ② 識字は、文字を読み書きできる能力を意味するだけでなく、文字文化を活用する意識を高める機能をも意味する。イギリスで書くように話すことが奨励されている事実が示すように、文化程度が高い国では人々は書き言葉を話し言葉に取り入れて内面を形成することが必要となるということ。
- ③ 識字は、さまざまなテキストを頭の中で用意し、これを口頭言語へと移し替える能力を意味する。こうした能力を駆使することで、われわれは口頭言語での伝達が難しい文化を後続世代に継承する機能を言語に取り入れることができるのであって、その意味でも識字は内面形成に重要であるということ。
- ④ 識字は、社会的な排除と階層化に関与する、一種の権力的な機能を持っている。人々は権力者によって書き言葉を駆使することを暗黙裡に強制されており、頭の中で口頭言語をすべて書き言葉に変換することで社会における物事を理解し、排除と階層化の構造を受け入れるということ。
- ⑤ 識字は、精神の領域が文字で支配されている現代人の心的構造を意味している。文字文化は教養の形成には不可欠で、教養ある個人が上流階級を構成することになるのであり、われわれは学校教育では話し言葉を書き言葉に変換して理解することで、初めて内面を豊かにすることができるということ。

問11 本文の内容を端的に表した題名として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

19。

- ① 精密コード
- ② 精神の文字化
- ③ 識字と非識字
- ④ リテラルとオーラル
- ⑤ 言語の内面化

問12 二重傍線部(イ)～(ホ)の漢字と同じ漢字を含むものを、次の各群の①～⑤の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答

番号は 20 ～ 24。

(イ) テツテイ

20

- ① 民意のテイリユウにある政治不信
- ② 記念品のゾウテイを行う
- ③ 姉妹都市関係をテイケツする
- ④ 教科書にカイテイを施す
- ⑤ 台風は南の海上でテイタイしている

(ロ) バイタイ

21

- ① 園芸用のバイヨウドを買う
- ② 化学反応のシヨクバイとなる物質
- ③ ピアノ演奏でバイオンを響かせる
- ④ バイシンインに報告を行う
- ⑤ バイシヨウ責任が生じる

(ハ) ソウグウ

22

- ① センソウから輸入品を陸揚げする
- ② 労働ソウギに発展する
- ③ 一連の経緯をソウカツする
- ④ 登山中にソウナンする
- ⑤ シツソウした人物の足取りをたどる

(ニ) ヤクドウ

23

- ① 規律の厳守をセイヤクする
- ② サイヤクがふりかかる
- ③ ゴリヤクがあるように祈る
- ④ 各勢力が裏でアンヤクする
- ⑤ 教科書の英文をワヤクする

(ホ) シヒヨウ

24

- ① 同じドヒヨウで勝負する
- ② 著作がコウヒヨウを得る
- ③ ヒヨウジュン記録を設定する
- ④ ヒヨウハクの詩人と呼ばれる
- ⑤ ふとしたヒヨウシに思い出す



第2問 次の文章を読んで、後の問い(問1～7)に答えなさい。

亡くなつてはや3カ月、樹木希林さんの出演した映画を立て続けに見ている。「あん」<sup>ア</sup>「わが母の記」「日日是好日」。どれも老境をさりげなく演じて、余韻が深い。

お目にかかったことはないけれど、取材依頼の返事を電話でいただいたことがある。「マネジャーもメイクさんもないのよ。取材対応も私ひとり」「ご存じかもしれないけど、私もう全身病気だから」。軽快な口調で30分余り。取材を断られたのに、不思議と充足感があった。

希林さんが全身のがんを公表したのは70歳。以後、**X** 哲学を披露する。「老いや病気にブレーキをかけた<sup>(ロ)</sup>とは思えない」「病を悪、健康を善とするだけなら、こんなつまらない人生はない」。

日ごろ心がけたのは、身の回りの始末である。毎朝、ひとしきり掃除をする。服はボロボロになるまで着る。「長くがんと付き合っている<sup>(イ)</sup>と、『**Y** 死ぬ』じゃなくて、『**Z** 死ぬ』という感覚なんです」。

言葉は人々の胸にじんわりと染みこんだ。この秋、本紙の「ひととき」欄に投書が載った。「胃ろう<sup>(ニ)</sup>など延命治療は受けたくない」。遠慮があつて長く言えずにきた本心を、希林さんの訃報に接して息子に伝えることができたという。79歳の女性だった。ともすれば長く生きることのみを是とする思考に陥りがちだが、人生に潮が満ちる年代ともなれば、病を隠さず、老いにあらがわず、死から目を背けない。希林さんにならない、「自分の人生を使い切りたい」と願う<sup>(ホ)</sup>のみである。

『朝日新聞』二〇一八年二月一日「天声人語」による)

(注) 胃ろう … 腹部に小さな穴を開けて管を通し、栄養などを胃に直接送る医療処置。



問1 破線部ア「『わが母の記』」は井上靖の小説を原作とする映画であるが、井上靖の小説作品として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

25

① 『おろしや国酔夢譚』

② 『にぎりえ』

③ 『風立ちぬ』

④ 『春の雪』

⑤ 『砂の女』

問2 波線部(A)「老境をさりげなく演じて、余韻が深い」の意味として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で

答えなさい。解答番号は 26。

- ① 老いと若さの葛藤を思わせる含みのある表現に、筆者も心を揺さぶられる。
- ② 個人的な交流のあった女優の生前の演技に、しんみりさせられる。
- ③ 死を意識してからの出演作であるため、独特の深みを持つ作品が多い。
- ④ 「病を悪、健康を善」としないような作品は、複雑で面白味に富む。
- ⑤ 老いゆく者の姿を、自然な振る舞いで表現した演技に味わいがある。

問3 破線部イ「お目にかかった」とあるが、傍線部がこれと同じ種類の敬語になっている文として最も適切なものを、次の

①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

27。

- ① 右手に見えますのが東京タワーでございます。
- ② ご存じかもしれないけれど。
- ③ のちほど担当者が参ります。
- ④ 料金は1080円です。
- ⑤ さあ、召し上がってください。

問  
4

空欄

X

に入れるのに最も適切な語句を、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

28

。

- ① 近々に
- ② 半々に
- ③ 散々に
- ④ 折々に
- ⑤ 銘々に

問5

空欄

Y

・

Z

に入れる語句の組合せとして最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えな

さい。解答番号は

29

。

- |   |            |           |
|---|------------|-----------|
| ① | Y    誰でも   | Z    私が   |
| ② | Y    いつかは  | Z    いつでも |
| ③ | Y    近いうちに | Z    いずれは |
| ④ | Y    おおよそ  | Z    確実に  |
| ⑤ | Y    ばったり  | Z    じわじわ |

問 6

本文の主旨として最も適切なものを、次の①～⑤の中から選び、記号で答えなさい。解答番号は

30。

- ① 人間は亡くなっても、後世に仕事を残すことができるのだから、いたずらに肉体のみを長生きさせても仕方がない。
- ② 病を悪、健康を善とする人々の価値観を正すことで新たな人生の地平が広がることを、私たちは肝に銘ずべきである。
- ③ 誰でも晩年ともなれば、「樹木希林」氏のように日常的に死を意識し、身の回りの始末をすることが望ましい。
- ④ たとえ親子の間柄でも、死に関わることを相談するのは難しいが、それでも延命治療は勇気をもって拒否すべきだ。
- ⑤ 病や年とともに訪れる身体の衰えを否定するのではなく、自然に受け入れながら、最期まで自分らしく生きたいものだ。

問7 二重傍線部(イ)～(ホ)の品詞名を、後の①～⑧の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。解答番号は  ～ 。

(イ) 私もう全身病気だから

(ロ) ブレーキをかけたいとは

(ハ) じゃなくて

(ニ) 「ひととき」欄に投書が載った

(ホ) 願うのみである

- |   |     |
|---|-----|
| ① | 名詞  |
| ② | 動詞  |
| ③ | 形容詞 |
| ④ | 連体詞 |
| ⑤ | 副詞  |
| ⑥ | 接続詞 |
| ⑦ | 助詞  |
| ⑧ | 助動詞 |

2020年度一般入学試験前期日程(2月2日)【国語】

『朝日新聞』2018年12月14日「天声人語」

承諾書番号 20-2043

※上記記事に関して朝日新聞社に無断で転載することを禁じます。